



教会報ほんじよ

〒130-0011 東京都墨田区石原 4-37-2 TEL : 03-3623-6753 FAX : 03-5610-1732
http://www.catholic-honjyo-church.org

INDEX

- 「春寒」
主任司祭 パウロ 豊島 治
- 「1月1日
神の母聖マリアの祭日」
- 「1月7日 満二十歳の祝福」
- 「司牧評議会からのお知らせ」
- その他



「春寒」

主任司祭 パウロ 豊島 治

二月のご挨拶を申し上げます。

激甚災害に指定された能登半島地震、そして飛行機事故にはじまった令和六年も一か月が経ちました。激甚災害に指定されたということは被災地のインフラ復旧に国が財政援助するという事です。それだけに被災地の生活困難は伺い知れます。本所教会での被災地支援のための募金はしばらく時間をいただきましょう。それは募金を行うならば、どのように使われるかを明確にしているという事からです。一月二十日に名古屋教区の担当司祭から具体的なものが発表されたので、今日から期間限定で行います。

初の最大震度七となった阪神淡路地震は二十九年前にもなります。発災は午前五時過ぎですが、携帯電話もない時代。情報カメラのシステムがまだないので東京は情報が把握できず、当時の日テレの朝番組では悠長に『ズームイン!』と言っていたのです。初動の判断が大事であることが思い知らされました。この地震がきっかけではじまったのは「震度判定の人間から機械化」

「災害派遣チーム」「ガスボンベの規格を同じにする」という制度とともに「ボランティアを募って活動する」「NPO法成立」という今では当たり前のものが誕生したのです。

カトリック教会としての被災地支援は年々迅速かつ趣旨がはっきりしてきていると感じます。阪神大震災当時私は学生で東京教区青少年委員会の事務局のお手伝いをしていました。ワールドユースデイがマニラに行なわれた二日後の発災でした。教区の青年は「ライブキャラバン」という企画を通して関西地区の青年とのつながりがありました。

その大阪の青年から告げられたのです。「いつも交流といっってはワイワイの企画ばかり。関西がこんな時だからこそ、手伝ってくれよ(もちろん関西の言葉使いました)。」その言葉にはっとさせられた時、都内在住の修道会神学生が中山手の本部に定住する形で赴かれ、機動力のある四輪駆動車をもつ青年とコンピューターシステムに詳しい青年が派遣されていきました。大勢の人力が他府県から必要とされるのは一時であり、あとはそれぞれの能力を持つ人が適時関わればいい段階になった時、白柳枢機卿様は東京教区災害対応司祭を任命してくださり、引き継がれていきました。

その後も二回の新潟中越地震、熊本そして東日本大震災があり竜巻・豪雨での被害でもかかわってきました。いままでの貧しくされた側に立つという教会の姿勢が始まりの氣勢ですが、現場の話を聞いて、理解し、必要な救援を迅速にする体制は進んでいると感じます。

今、私たちは募金という形で震災への関心を示していますが、ぜひご自身のためにも対策をしてみてください。地震動予測図もありますが、南海トラフは八十パーセントの確率とされている一方、今回の能登半島は〇・一から三パーセントでした。だから確率ぬきで備えること。黄色の「東京防災」の本は全世帯に配られたと思います。昨年五月に改訂されていて薔薇色になっています。お手元にあるでしょうか。あと、ご自宅の電話回線の契約内容を確認ください。「光電話」での契約の方は停電時原則通話できません。災害発生そして連絡をとりたいたとき、どうしたら意思疎通がとれるのかを相談しておくこと。自身が助かってこそ他者を助けることができるのですから。



東京都防災ホームページ